

1. センターの設置の目的と意義（概要）

(1) 研究組織の特色と目的

- ・ 龍谷大学瀬田学舎（滋賀県大津市）に隣接する里山林約38haを中心に学術総合調査研究を展開
- ・ 龍谷大学エクステンションセンター・自然観察教室、瀬田丘陵の保全研究グループ、理工学部環境ソリューション工学科と連携
- ・ 滋賀県琵琶湖周辺に点在する里山も比較しつつ調査研究
- ・ 自然科学・社会科学・人文科学の里山総合学術調査研究
- ・ 自然と人間との多様な関係性の総体、「文化としての自然」を把握
- ・ 地元住民および行政とのパートナーシップを育成・拡大
- ・ 全国の環境NGO・NPOおよび里山保全市民団体とのネットワーク構築
- ・ 里山保全のモデルを構築し、里山研究の拠点へ

(2) 二つの研究チーム

<研究班1：生物多様性・環境計測調査研究>

- ・ 生物多様性に焦点をあてた調査研究
- ・ 各種気象要素および地域生態系のエネルギー循環の調査研究
- ・ 植物相に関しては、植物約250種、菌類約120種をすでに確認
- ・ 水辺環境を創生し、かつての里山利用の形態を復元し、生物相の復元過程を追跡調査
- ・ 保全生態学の立場から、伝統的な里山管理技術の調査研究に関して指導性を発揮
- ・ 木質バイオマス利用の実験的研究

<研究班2：社会人文科学・地域共生学調査研究>

- ・ 瀬田丘陵をはじめとする里山地帯での入会権や習俗・慣習、農業経営について調査研究
- ・ 法制史学、歴史学、経済学、環境社会学、仏教学、哲学など多彩な角度から研究
- ・ 実験考古学的な研究や里山エコツーリズムの適用可能性検証

- ・ 里山の「文化としての自然」の研究、および欧米の環境倫理との比較
- ・ 里山学の4大学（金沢・九州・京都女子・龍谷）連携を強化発展

(3) 期待される研究成果

- ①里山の生態系が解明されること
- ②里山に関する初めての総合学術調査研究が行われること
- ③新しい環境教育と保全活動のための里山モデルの構築が提案・提供されること
- ④里山保全を基礎とした市民や行政と大学人が連携する地域共生のモデルの構築が提案・提供されること